市川市ＰＴＡ連絡協議会

Ｐ連だより

平成２０年度　第３号

２００９年3月２３日発行

発行：市川市ＰＴＡ連絡協議会
編集：市川市ＰＴＡ連絡協議会　広報部会
発行責任者：佐藤博彰
事務取扱：市川市教育委員会生涯学習部
生涯学習振興課内
〒272-0143 千葉県市川市八幡１丁目１番１号
ＴＥＬ．047-334-1111（内線 4315）
ＦＡＸ．047-336-8048

市川市ＰＴＡ連絡協議会

ホームページ http://www.ichikawa-pta.jp/　電子メール info-1@ichikawa-pta.jp

異体同心の思い

市川市ＰＴＡ連絡協議会
会長　佐藤　博彰

今年度も残りわずかとなりました。会員の皆様のご協力を頂き、子ども達に、特に大きな事件・事故も無く今年度を終えられることを、心より御礼申し上げます。

さて、以前よりお知らせをしておりますが、日本ＰＴＡ全国研究大会を平成22年８月に、千葉県と千葉市の合同で、全国から８０００名余の会員の皆様をお招きして、開催致します。

市Ｐ連では、この全国大会の第１分科会を１２００名余の会員をお招きして開催することになります。市Ｐ連では、来年度から分科会実行委員会を立ち上げ、より良い大会にするべく活動をしてまいります。この大会を成功させるためには、多くの労力と、資金が必要となりますが、全国から集まる皆様が、今後のＰＴＡ活動、子育ての一助となるような大会にするために、皆様方のご理解と、より一層のご協力をお願い致します。

また、市Ｐ連の活動と致しては、役員の皆様のお力により、有意義な一年となったかと思います。来年度以降も、会員の皆様、市川市の子ども達の顔の見える活動を進めてまいります。

故事に「異体同心なれば万事を成さず」とあります。会員おひとりおひとりの思いが同じ方向に向かい行動を起こす時、そこには無限の可能性が秘められていることと思います。それはまた、子ども達にも通じることだと思います。

１００年に一度ともいわれる不況のなか、子ども達を取り巻く環境も日々目まぐるしく変わる昨今ですが、来年度も会員の皆様が、元気に無事故で、ご活躍されますことをご祈念し、ご挨拶とさせて頂きます。

第３回オリエンテーション

「面白い活動は、人を街を、元気にする！」
～市民芸術文化活動による、子どもと大人の成長～」

講師　吉原　廣

２月13日、市川市生涯学習センター・グリーンスタジオにて、第３回オリエンテーションを１５０名の参加者のもとに開催致しました。

講師には、市川市に在住で、演出家・市民文化プロデューサーの吉原廣氏をお招きし、表題の内容で講演を頂きました。

吉原氏は20数年前に市川市へ移って来ました。その当時は「寝に帰るだけの街」で、地域の人との関わりも殆どなく、そのことさえ気にならないで過ごしてきたそうです。しかしある時、「あなたの能力を、もっと地域の人達のために役立てるべきだ」と言われて、自分の経験してきたことを活かして市民の手による文化芸術活動を発展させようと、ＮＰＯ法人いちかわ市民文化ネットワークを設立しました。それから「面白い活動は、人を、街を、元気にする」をキャッチフレーズに、市民文化芸術活動を核にしたまちづくりに奮闘中で、その活動の中心となっているのが三世代交流による「いちかわ市民ミュージカル」と障害者中心による「チャレンジド・ミュージカル」です。

講演される吉原廣氏

「いちかわ市民ミュージカル」は平成14年から２年に一度のペースで、市川にまつわる話をもとに吉原氏が書き下ろしたオリジナル作品で、毎回３００人の参加者と１５０名の市民スタッフによって４回の公演を行ってきました。このミュージカルを通して感じられることは、子どもの潜在能力は計り知れないということ。初めはダラダラとしていてなかなか稽古が進まず、一緒に参加している大人達をやきもきさせていた子ども達が、いつのまにか大人を追い越し、毎回大人の方が焦り出すのだそうです。ただ、長年見ていると、子ども達の集中力が段々に長続きしなくなってきていて、以前は１時間程度の練習は普通に出来たのが、今回の練習では15分も持続出来ない子が多くなったそうです。また、習い事や部活、塾などでやけに忙しく、気楽に練習に参加出来ないという子も多くなったと感じていると話されました。

講演を聞く参加者

また、毎年公演している「チャレンジド・ミュージカル」は障害を持った子どもから大人までの約１００人の参加者と、これをサポートする市民ボランティアと福祉大の学生達によるミュージカルです。「始めたきっかけは単純に面白いと思ったから」という吉原氏も、稽古場で突然騒いだり、泣き出したり、走り回ったりする障害のある子ども達への不安に加えて、そうした子ども達に振り回されている学生サポーター達の頼りなさや未熟さに飽きれたりしていたそうです。それでも練習を重ね、スキンシップが徐々に身に付き自信を持ってサポート出来るようになり表情が変っていった学生達を見て、思い切ってやってよかったと。そして、それぞれ違った立場の人達が、ミュージカルという表現活動を通して人間的に成長していく姿を見ていると、もっと広くこの市川に市民文化芸術活動を広げていくことが出来れば、地域が活性化し、子どもも大人も共に成長し、地域が繋がっていくと信じて、活動をされているそうです。

吉原氏は、「やりたいと思ったことを人前でしゃべっていると必ず実現出来る」と信じ、何事においても前向きで突っ走っていると話されました。